



一般質問とは、市の行政事務の状況や将来の方針などをただしたり、報告を求めたりするもので、定例会ごとに行われます。今定例会では、14名の議員が質問を行いましたので主なものの要旨を掲載いたします。なお、本文中の「見出し」及び「問」は、質問者自身が責任をもって作成したものです。

詳しい内容は、会議録（2月下旬発行予定）を議会事務局、児玉総合支所、本庄ガスECOはにぽんプラザ、図書館、公民館及び市議会ホームページで閲覧することができます。

<https://ssp kaigiroku net/tenant/honjo/pg/index.html>



市議団未来代表 林 富司  
幹線道路として期待している市道第140号線は途中で頓挫し完成していません。今後何年間で建設されるのか具体策をお示しください。また、居住環境の整備を進める中で狭い道路の解消及び通学路の安全対策の取組について伺います。次に快適な通行確保、景観の面、商店街の価値観等が上がると考えられます。電線類地中化の本市の現状及び取組について伺います。

市道第140号線は、計画延長の65%が完了していますが、国道17号本庄道路と交差する計画であることから整備方針を検討しています。また、この路線に関しては、仁手自治会からの要望により市道第3151号線の用地を生かした整備を進めていきます。

狭い道路の解消については、土地の買収等をして路線単位の拡幅整備を推進してお

市議団未来代表 林 富司

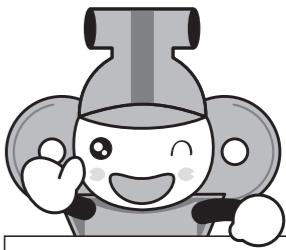
道路整備等に対する諸問題について

児童生徒が安全に通学できる

はにぽん

## 一般質問

# ここがポイント! そこが聞きたい!!



市議団大地代表 高橋 和美  
持続可能なまちづくりについて

【問】 持続可能なまちの必須条件は社会的包摂・経済成長・環境保護です。特に環境保護については、地球上に生存するあらゆる動植物の生態系に影響を及ぼすだけに喫緊の課題です。本市は二酸化炭素排出量ゼロをめざしてゼロカーボンシティ宣言をしています。環境保護は社会全体の問題であり、多くの市民の意識や行動を促すべきとして環境フェアの開催ができないかお尋ねします。

【答】 環境フェアについては、環境への配慮や意識を高め、持続可能なまちづくりを推進する上で意義があるものと認識しています。幅広い世代に、様々な環境問題を自分事として捉えていただく契機として一定の効果が期待されます。また地域の環境活動団体や企業にも協力をいたくことで連携を深め、環境に配慮した都市イメージを広く発信するなど、相乗効果



(環境推進課)

も期待できると考えています。本市では、市民の皆様や事業所等への啓発活動として、各部署が主催するイベントや、市民ホールなどでテーマを絞ったブースの設置、パネル展示などを続けてきました。目的は、市民の皆様に環境への理解と取組への参加を進めさせていただくための事業です。今後も継続して市民の皆様にもご参加いただけるよう取り組んでいきます。

【問】 遊休農地の活用について

【自由民主党 早野 清】

【答】 は、高齢化や農業者の減少によって非常に厳しい状況にあるということも事実だと思います。地域の特性に応じた多様な土地利用が調和できるまちづくりを目指し、今後も市と農業委員会が協力し地域に必要な土地の活用方法について、様々な角度から調査研究してまいりますと言っています。農業振興地域内農用地での遊休農地の今後の方向性についてお伺いします。

【答】 本市の農地約227haの内、農業の振興区域内に遊休農地と判定されているものが約74haあります。遊休農地の有効活用について、まずは農地として利用していただき、整備保全していくことが、食料自給率の低い我が国では求められています。特に農用地区域に含まれる遊休農地は、農業振興施策



市街地隣接の遊休農地

【その他の質問】

- ・雉岡城跡公園の環境整備について
- ・中心市街地に大型総合公園を造ることについて

(農政課ほか)

を計画的に実施するため確保された集団的農地ですので、引き続き農地の有効活用に取り組みます。

農業振興地域は、農業を中心として推進していく一方、農業の振興を図りつつ、まちづくりの面からも大局的な視点も大事であると考えています。将来的な見解としては、一部の農地の状況によつては、道路事業等で集団性が確保できないものや、市街化の進展により農業に適さない、もしくは都市的利用により、市にとって有効な土地利用となる可能性もあると考えています。



市道第140号線

【その他の質問】

（道路管理課・道路整備課）

【答】 ふるさと納税は、本年度より児玉駅前通り線の整備を進めおり、拡幅部分の用地取得率は73%です。また、本庄駅南口前通り線を「整備の検討に着手する路線」として位置付けています。この他、国や県により、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業の約4.0km（一部市道）、国道17号、国道462号や中山道などで事業が進められています。

（返礼品）

【その他の質問】

（道路管理課・道路整備課）

【答】 ふるさと納税は、本年度より児玉駅前通り線の整備を進めおり、拡幅部分の用地取得率は73%です。また、本庄駅南口前通り線を「整備の検討に着手する路線」として位置付けています。この他、国や県により、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業の約4.0km（一部市道）、国道17号、国道462号や中山道などで事業が進められています。

【その他の質問】

- ・本庄市の上下水道事業について
- ・学校図書室及び図書館の運営について

(広報課)

【その他の質問】

- ・本庄市の上下水道事業について
- ・学校図書室及び図書館の運営について

(広報課)

本庄市において2008年からふるさと納税制度が導入されました。現在でも自治体間の過熱する返礼品が続いている。新聞紙上で2023年度、一都三県の調査で実質収支が165自治体で赤字でした。

ふるさと納税は、地域の特産品を返礼品として取り扱うことで、本市の魅力を全国に宣伝するシティプロモーションの一つであると捉えています。引き続き、国が示すふるさと納税の適正化のための基準を順守し、寄附額の増加に向けた取組を推進します。

は、寄附件数12,585件、寄附額約1億6,400万円のご寄附をいただきました。本市のふるさと納税の収支状況ですが、令和6年度までの実質の収支は、継続して黒字であり、令和6年度の黒字額は約2,637万円でした。

ふるさと納税は、地域の特産品を返礼品として取り扱うことで、本市の魅力を全国に宣伝するシティプロモーションの一つであると捉えています。引き続き、国が示すふるさと納税の適正化のための基準を順守し、寄附額の増加に向けた取組を推進します。



